



11月3日(火)

## 王について行く

聖書朗読 マタイ 21:1~11

見よ。あなたの王があなたのところに來られる。この方は正しい方で、救いを賜り、  
柔和で、ろばに乗られる。 ゼカリヤ9:9

イスラエルでは、王と勝利軍の将軍は最高級の馬に乗っていました。それとは異なるふるまいと目的をお持ちになった王について、ゼカリヤは預言しています。何に乗るかを選択されたことが、この違いを示しています。預言者は、この王には軍馬がないことを明らかにしています。この王は諸国の民に平和を告げられるのです。そんなことがうまくできると思う将軍なんているのでしょうか？ しかし、預言者ゼカリヤは大胆にも、こう宣言しています。その王国の「支配は海から海へ、大川から地の果てに至る。」と。これは、かつて誰も見たことのない王と王国です。

歴史的にみて一般的な王国では、人々は王の前を走りました。しかし、イエス様はあとに従うように人々に言いました。イエス様がエリコに近づかれたとき、「私をかわれんでください。」という盲人の物乞いのバルテマイを黙らせようとして、先頭にいた人々は彼をたしなめました。けれども、イエス様はバルテマイを癒され、彼はイエス様について行きました。

イエス様に従う者の中には、イエス様に導いていただくのではなく、イエス様を自分がよしとする方へ引っ張っていかうとするペテロのような者もいました。ペテロは、イエス様のご自身の死について予言されたとき、イエス様をいさめたりもしました。さらに、ゲッセマネでは、イエス様が捕らえられるのを阻止するために剣を抜いたこともありました。それは、イエス様がこの世に使わされた目的である、イエス様が捕らえられ、この世の罪のために死なれることをはばむことです。しかし、その後、ペテロは再びイエス様の後ろをついて行くこととなります。

ろばの子に乗られたこの王のあとについて行くと主張することは、自分自身の計画にではなく、イエス様のご計画に注意を向ける必要があります。なぜなら、イエス様は、私たちが謙虚であること、義を追求すること、全世界の平和を求めるように、私たちに導いてくださる王だからです。

讃美歌 379

祈り あわれみ深いお父様。御子は海から海へ、大川から地の果てに至る王国を建設されました。私たちはその王国の市民になりたいです。

イエス様のお名前によって。アーメン。

アル・コーネル

ウィスコンシン州 ヒルズボロ

11月4日(水)

## もし神のお気に入りなら

聖書朗読 マタイ 27:32~44

彼は神により頼んでいる。もし神のお気に入りなら、いま救っていただくがいい。  
「私は神の子だ。」と言っているのだから。 マタイ27:43

十字架はあざけりに満ちていました。「これはユダヤ人の王」と書かれたイエス様の頭の上の掲示は、罪状書きを意味していましたし、イエス様を処刑しようとしている者たちは、イエス様が苦しまれるのを見るためにその場に座っていました。通りすがりの者たちは首を横に振り、イエス様とともに十字架につけられたふたりの強盗は、イエス様を罵倒しました。

祭司長、律法学者、長老たちも一緒になってイエス様をあざけりました。彼らは、イエス様が十字架から下りたら、イエス様を信じると言いました。ひどい肉体的苦痛に苦しんでいる人があざげられているのです。この27章の43節が際立っています。「彼は神により頼んでいる。もし神のお気に入りなら、いま救っていただくがいい。『私は神の子だ。』と言っているのだから。」と祭司長やほかの人たちが言いました。

「もし神のお気に入りなら」ですって？ まさにこの瞬間、神様のみこころを全うされようとなさっている貴い御子を神様がお気に入りなら……とは、いったい何を言おうとしているのでしょうか？ 彼らには、今まさに神様が御子を深く愛していらっしゃるということがわからなかったのです。イエス様は、マタイの3章17節で神様が「私の愛する子」と言われた御子です。ユダヤ人の指導者たちは、自分たちの無知に気づいていませんでしたが、真実は、神様は常に御子を愛していらっしゃるということです。父なる神、御子イエス様そして聖霊は愛のうち存在され、それは本質的に永遠の過去から続く愛です。その愛は父なる神、御子イエス様そして聖霊とのつながりに私たちを引き寄せてくれます。私たちがまた、神様のお気に入りだからです。

讃美歌 461

祈り お父様。あなたがなされるように、私も御子を愛することができますように助けてください。イエス様とイエス様のメッセージを決してないがしろにすることなく、愛せるように助けてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

シャロン・フォースター  
テネシー州 マクウエン

11月5日(木)

## 手を差し伸べて誰かに触れる

聖書朗読 マタイ 28:19~20

こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるようです。私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解を受け入れなさい。  
Ⅱコリント5:20

電話をかけて「手を差し伸べて誰かに触れよう」という電話会社のテレビCMがあったのを覚えていますか。インターネットや携帯電話、Facebook、ツイッター以前のことで。

いまや、自分のほかに誰もいないのに、買い物をしたり、誰かが大きな声で話しているのを聞いたりするかもしれません。

返事をして無視されたあなたは、声の主は実は携帯電話で、あなたがそこにいることさえ知らないのだと気づきます。一方、私たちは、友だち全員と電話で夕食を共にするかもしれません。

私たちは、非常に多くのさまざまな電子機器で人やゲームとつながっていて、ほかの世界を遮断するドームを自分たちの周りにつくってしまいました。ですから、今までより多くの人に連絡を取りやすくなったとしても、お互いに連絡を取り合う代わりに、かつてないほど疎外感を感じるかもしれません。

孤独を感じている人と話したり関わったりする機会を求めましょう。彼らは、いつも使っている電子機器からほんの数分現われるだけかもしれませんが、私たちはその一瞬をとらえて、彼らが、彼らを探しておられる神様のもとにたどり着けるように助けることができます。神様こそ私たちを見つけてくださり、私たちに命を与えてくださったお方です。

讚美歌 243

祈り 親愛なる主、神様。私たちを助けて、どうしたらあなたの救いによって人々に手を差し伸べられるかがわかるようにしてください。  
イエス様のお名前によって。アーメン。

キャロリン・イェーツ  
ノースカロライナ州 ローリー

11月6日(金)

## 道を準備する人

聖書朗読 マルコ 1:1~8

御名のために、わたしを義の道に導かれます。

詩篇 23:3

大統領が地方遊説をするとき、ただ単にふらっとそこを訪れるわけじゃありません。事前に大統領の安全が守られ、効率的に時間を使うことが出来るように、詳細な手配が行われます。交通機関、会議、訪問者、スピーチに至るまですべてが事前に整えられているのです。

マルコは福音を「主の道を用意する」役割を与えられたバプテスマのヨハネについて語ることから始めています。「あらゆる良いわざに間に合うもの」(Ⅱテモテ2:21)や「神に会う備え」(アモス4:12)のために私たちそれぞれは備えるべきだということを私たちはよく口にします。しかしバプテスマのヨハネはほかの誰かが成功するための道を整えたのです。

誰かがあなたを見て、話して、見習ってそこからイエス様に会えることが出来ると思いますか？あなたはイエス様を知らない人がイエス様に会えるように準備出来ますか？あなたは悩み、混乱し、萎縮しているそんな誰かが神様に会える道をまっすぐにするためにいるのではないのですか？

誰も1人ではあらゆる面で成功することが出来ません。誰かが神様へと至り、成長できるようなまっすぐな道を準備する人となりましょう。

讚美歌 誰かのために

祈り 愛するお父様。私たちを愛して下さってありがとうございます。私たちが誰かがあなたのもとへと至る道を準備する人となれますように。

信じます主イエスキリストの御名によってお祈りします。アーメン

ケヴィン・B・レイチェル  
テネシー州 ナッシュビル

11月7日(土)

## 自分にできることをする

聖書朗読 マルコ 14:1~9

この女は、自分にできることをしたのです。

マルコ 14:8

とても高価な香油をイエスの足にそそいだ女性について書かれたこの箇所は、いくつかの点で興味深いものとなっています。このエピソードは四福音書すべてに書かれている数少ない者の一つです。イエスへの信仰と愛の証としてそこに記されています。今回、彼女が自分にできることをしたという、意欲について注目して見ていきたいと思えます。

イエスのために何かをしようと思ったとき、一年分の給料という大きな犠牲を彼女は払いました。そしてそれを何の不平不満もなく行ったのです。かえって不純な動機でイエスに仕えている者の方が文句を言う始末でした。

90年代に当時の教会員だったある年若い女性も同じようにしていたことを覚えています。家に帰る道すがら、彼女はいつも誰かのために電話をかけ、教会では僅かばかりの退職金からできる限りの事をしていました。彼女は多くの人に信仰を示したのです。

私たちはイエスの足に香油を注ぐことはできないかもしれませんが、同じように喜びの中で祈りつつ自らが出来る限りのことを行うことはできるのです。

讃美歌 391

祈り 天にいます父なる神様。私たちはできることをするよりも、できなかったことを悔いることに時間を使ってしまいます。どうかこれを改めて、最善を尽くすことが出来ますように恵みで満たしてください。アーメン。

ロバート・P・マレン

11月8日(日)

## 日が沈んだ後の賛美

聖書朗読 マルコ 14:22~31

そして、賛美の歌を歌ってから、みなでオリーブ山へ出かけて行った。

マルコ 14:26

血と裏切り、拒絶に満ちた夜の会話の後、賛美したというのは信じ難い事実です。あなたを否定し、裏切る人がそばに座しているとき、あなたは賛美できるでしょうか？裂かれた肉と流れる血を表すパンとワインの目前で賛美できるでしょうか？あなたに付き従った弟子たちがすべて裏切ると口にした後、あなたは賛美できますか？本当にその時、賛美することが適切なのでしょうか？黙とうの方が相応しいとは思いませんか？実はそうじゃないのです。

「そして、賛美の歌を歌ってから、みなでオリーブ山へ出かけて行った。」なんて平和な言葉なのでしょう。歌い、歩き、どこか野原でピクニックをしているかのようなどこかさです。しかし、その晩のオリーブ山は決してピクニックに行くような場所ではありません。苦しみ、悲しみに満ちた場所だったのです。そんな中、イエスは讃美の後に山へと向かいます。ヤコブ5:13では幸せな時に歌うことを進めています。しかし詩篇42章8節では「昼には、主が恵みを施し、夜には、その歌が私とともにあります。」とも書いてあるのです。神様は暗い夜の中、魂が沈むときでも私たちに歌を与えてくださるのです。

讃美歌 4

祈り 神様、その愛に感謝します。私たちが喜んでいるときも、悲しんでいるときも歌を与えてくださることを感謝いたします。

いつでもあなたをほめたたえ、頼ることが出来ますように。アーメン。

デービッド・ラングフォード  
テキサス州 ラボック